

## 祖父と3人の大おじのこと

匿名希望（祖父や母から聞いた話、たつの市出身）

祖父の3人の弟は陸海空（陸軍もしくは海軍の航空隊）にそれぞれ所属し、3名共戦死しました。仏間に3人の大おじの軍服姿の遺影があることに「戦争はイヤだな…」等の思いがありました。特に疑問は持たずに子どもの頃をすごしました。大きくなってから1つの家から3名もの戦死者が出たのは珍しいとの話を母等から聞き、改めて曾祖母はどのような思いで我が子の戦死の報を受けたのか…と胸が熱くなったのを覚えています。

祖父は、通信兵だったため、最前線ではなく上官と共に過ごすことが多く、戦地での幕営時も、他の兵士は野外でしたが上官と共に民家で寝させてもらったことを話してくれました。寡黙な祖父でしたが、納屋から出てきた、戦時中の兵隊さんの持ち物について話を聞かせてくれたことを覚えています。

曾祖母のエピソードとして…航空隊の大おじが九州の方に任務につく際、「何日の何時頃実家の上空を通過する予定」と伝えてきたそうで、その日曾祖母がその時刻頃に空をあおぐと2機の飛行機が通り、1機はそのまま通過しましたが、もう1機はせん回をくり返してから行ったとのこと。曾祖母は「あれが〇〇（息子の名）やったんやな」と言ったそうです。息子の戦死の知らせが入る度に、頭にひも（はちまき？）をまいて、「うーん」とうなって寝こんでいたそうだと父から話を聞きました。